

●竹蛇籠製作講習会 5 日 6 日の成果 10 月になっての竹蛇籠製作講習会が開かれた 5 日の午前中には 7 人、午後は 5 人の参加がありました。6 日の午前中は 9 人の参加者で、午後は 3 人の参加者でした。竹蛇籠製作は 5 年で 4 回目の竹蛇籠の製作になりました。これまでの 3 回の経験の教訓は何によりも均一の大きさ、特に竹幅の統一がされていることが製作に欠かせない素材の条件であることでした。竹の切り出し前の選別の丁寧な作業、そして切り出す直前での直径 7 cm の太さ確認と直線に伸びているか・曲がっていないかの確認が最も大切です。そして必要本数を選び出さなければなりません。時間がかかりますがこれが出来れば 8 割がた素材の提供の条件はクリアできるのです。藪の中には蚊が執拗に追ってきます。風がなく暑さもきつく、歩く足元は踏み場もなく枯れた竹が通路を阻みます。その中で適正な太さの竹を見つけ出さなければなりません。まさに悪戦苦闘というものです。お金をもらってもできないきつい作業です。280 本も見つけ出し、次に選んだ竹を伐採して、持ち出さなければならず、それが重たくて長くて竹同士が絡み合って、堤防の上に持ち出し、筐を取り払って長さを揃えなければなりません、切り落とした部分の後始末も片付けなければなりません。そして運び込み作業現場への運び込みになるのです。この大変な準備段階を終えて初めて竹割が始められるのです。竹割り時では正確に 4 分割できることが必要です。最初のころは根元から割り始める作業でした。3 年間根元から割っていました。今年初めて頭部からに改めました。かなり正確に割り出すことが可能になりました。今年 4 年目になるので、経験で得た教訓をこのように改善しました。まず竹の選び出しに落ち着いて丁寧に時間を使って選ぶことに改めました。随分と神経を使いました。続いて割った竹の基準幅のものを正確により分け、幅の広いものを選び出し、太田式竹幅精製機を使って、規格幅に整えることが出来るようになりました。ここまでは竹素材のほとんどの提供が整えられるように大変革がされました。最後のひび入れ転圧機では長さの半分の底辺部分になるので柔らかさに最も神経を使いながらひびをいれて柔らかくします。蛇籠の底辺部分(竹の長さの半分の位置)になるところ前後 2m で、この部分が固いと曲げが大きく太くなって、直径が確保できなくなり大きな太い蛇籠に仕上がります。柔らかくする部分の急所なので、念入りに操作します。つづいて根の部分の柔らかさが大切です。十字にひび割れが入るように注意しなくてはなりません。最初にひび入れ機が働く場所なので十分に割れが入らないうちに前進してしまいます。この部分が固いと支柱の追加 7 本目が適当にうまく柔らかでなければ編み上げる時に強い力が必要になります。また胴を編む竹や支柱竹の追加になる場合二重に重なりますので、さらに固くなるので、十分に柔らかくしておかなければなりません。こうしたところに気を付けながらひび入れを行っています。今年是这样した調整する三種類の機械が用意できたので、はじめて経験される皆さんにも同じ手順で力加減を経験に頼らなくても製作できるようになりました。随分と試行錯誤を繰り返して到達できた成果です。

●竹蛇籠と中聖牛取り組んで 4 年・取組中間報告シンポジウムの案内を全会員にはがきによって郵送案内を実施。 週刊ニュースの先週号 793 号でお知らせ致しました通りはがきによる全会員諸氏に案内状を送付いたしました。会員各位におかれましては万障繰り合わせご参集をお願いいたします。今回のシンポジウムでは、木津川の川砂採取の影響で河床の低下が 3m 近くも低く進行しております。1954 年の山城大水害以後高山ダムなどの建設でそれまで供給されていた土砂の供給が減少してしまい、水脈の固定化など始まり広く浅い木津川の特徴が失われています。同時に、高水敷の拡大が進化し、樹林化が進んできました。こうした変化と木津川の課題解決策を学ぶ場として、竹蛇籠・中聖牛の設置を取り組んでいる報告を兼ねて開催するものです。里山の会員の皆様、万障を繰り合わせてご参集を願い申し上げます。10 月 5 日の京都新聞は大きな案内記事を掲載いただきました。知人友人の方々に広くご案内をくださるようお願いいたします。

●4 日京田辺市市議会広報誌から取材の申し入れがあり、深田理事長と大村副理事長が対応されました。会広報誌編集員会から里山の会への取材の申し入れがあり、10月4日午後1時30分に対応をいただきました。次回の議会報の最終ページで取材内容が掲載されるとのことでした。取材では、発足当時の事情や現在の活動紹介の説明に、続き実績を表すものとして、会誌「里山の自然」46号や京都植物目録ノート、木津川の植物写真集、木津川生育植物標本写真集などを見ていただきましたところ、これだけの作品をよくまとめられていますね。まるで研究所のような活動をされる団体だと大変驚いておられたと報告がありました。

●夏原グラント4年目の交付金申請について 2カ月に及ぶ議論を重ねてきました。今回には実績やまとめ、そして課題を報告して10月18日に4年目の活動支援申請書の提出を確認できました。課題に共通しているものは、地域や多くの人々に里山農園の魅力や楽しさ、面白さをどの様にすれば伝えられるのか、広報宣伝が課題であること、そしてどんなに準備を早くから始めても遅くないこと、出来るだけ早い取組計画・企画書をたてて動き出すことが重要との意見が多く出されました。

●蛇籠シンポと台風19号について (大型で猛烈な台風)、まるでスーパーハリケーンの規模に発達している台風19号の接近が迫ってきています。9日の事務局会議で喧々諤々の論議が行なわれました。いずれにしても本土に接近すること、近畿地方はその影響は逃れられないとの認識は一致しました。そこで中止決定は何時の段階で判断するのかとなり、「警戒警報が発せられた段階で即中止とする」と決定しました。ご参加を予定されている皆様には、気象情報にご注意いただきご判断をお願いいたします。主催団体の里山の会は、現段階では実行の方向で準備を行うことにしております。先の15号の場合は京田辺市では何ごともなく平穏でありましたので、気象予報に従って行動することになりました。お間違いのないようお願い申し上げます。9日正午現在の判断は実行決行となっております。

●10月の日程

8日 竹蛇籠製作撮影 野中さんご夫婦来場	20日 竹蛇籠製作
11日 竹蛇籠シンポ前日準備	23日 事務局会議
12日 竹蛇籠シンポ 視察 体験 シンポ 交流	24日 パソコン 竹蛇籠製作
13日 竹蛇籠製作	26日 竹蛇籠製作 13:00 田んぼの生き物発表
14日 竹蛇籠製作	27日 9:30 竹蛇籠製作
16日 事務局会議 竹蛇籠製作	9:30 城陽市緑化フェスタ
17日 パソコン 竹蛇籠製作	10:00 京の川の恵みを活かす会フォーラム
18日 木津川レンジャー運営会議	28日 会誌47号印刷原稿完成
19日 竹蛇籠製作	29日 会誌47号印刷
20日 竹蛇籠製作	30日 事務局会議 会誌47号製本

●竹蛇籠のための三機種命名を決定 4年目にして竹蛇籠の製作に必要な工作機械を3台内揃えることが出来ました。それぞれにはまだ改善の余地は大きく数多く残しておりますが、一応人力による重労働から解放されることになりました。各位にはそうとは期間苦労を工夫を凝らしていただきました。ご苦労いただきました高橋慶平氏及び太田敏之氏に感謝の意を表します。

竹蛇籠シンポジウム開催に当たって、3台の竹割一式の機材の命名といたします

高橋慶平式竹割り機 2018年製作

太田敏之式竹幅調整機 2019年製作

ひび入れ転圧機 2019年購入

●竹蛇籠の一貫制作に成功 2019年10月8日 これまで頭部と底部に分かれて製作を行ってきました。今回竹蛇籠シンポに合わせて、蛇籠の製作方法を紹介するビデオを撮影に当たり、なんとしても底部から頭部までの一貫作品の完成をするとの決意で挑戦工夫を凝らしていただきました。その苦労が実って、作りあげていただきました。福井波恵さんをはじめ大釜智光、太田敏之さんそして野中ご夫妻のご奮闘の結果、本会初の完全完成品ができあがりました。皆様に披露し、ともに喜びあいましょう おめでとうございます。